

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月30日(水)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 池田校区公民館
- 参加者数 : 【市民】30人、【市職員】市長ほか10人、【総計】41人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

環境問題や温暖化を考えると、自然エネルギーの活用はとても大切だと思う。

温泉と地熱は熱源も違い、あまり影響をしないという話も聞かすが、現在、地熱発電は九州電力とメディポリスの2か所、さらに市が1か所、計画も数か所上がっていると聞いている。そうになると、そんなに掘って大丈夫なのかという心配もある。

温泉の場合は、泉源からある程度離さなければならぬという決まりがあると聞かすが、この地熱のボーリング調査についても、そのような規制はあるのか。

<市長>

地熱の件は、様々な賛否両論をいただいた。人口減少により税収も40億円を切り、財政基盤も弱くなる。となれば、みんなの財産である地熱を市が管理し、蒸気や熱を売ったお金を基金にして教育や福祉に役立てようというのが一つであった。

地熱発電は一つの手段であり、目的は、基金を積んで地域を元気にしよう。それを、農業経営にも生かそう。いろいろな所で、地熱の恵みをみんなで生かそうという考え方であった。

しかし地熱は、ホテル関係者・温泉関係者にとっては生命線であるので慎重にすべきだという意見もあり、事業を凍結した。

地熱発電事業をしたいという民間業者もあったが、撤退をした業者も結構ある。何かあったら全て責任を持って補償をすること、地域住民の理解を得ることといった条件を付してハードルを高くした。

市は試験をするための調査井を掘ろうとしたが、十分な理解を得ることができなかった。そのことで市及び市民が混乱してはいけないということで、苦渋の決断であったが事業を凍結した。やはりこれは、市民への説明をして理解を得る必要があるということであった。これについては、今後も意見をいただける場があるのではと思う。

去年から、山川ではケーブルを張って、地下の調査など、いろいろな調査を行った。そして、山川の地熱発電所の実績もあるので、あそこであれば影響もなく、目標とするような地熱発電の成果が得られるだろうということで、市として伏目海岸を提案した。

あと一つは、日本と外国の温泉文化は全く違う。外国では、刺青等がファッションとして流行している。ところが、刺青をしている人の入浴は禁じられている。また、宗教や温泉文化が日本と合わないのが、来られた方が気軽に指宿の温泉を楽しむことができるように、水着で入れる温泉を造ったらどうかというものもあった。

しかし、議会を含めて十分に理解を得ることができなかつたので凍結に至った。

【市民】

山川・開聞・指宿は非常に農業生産力の高い地域で、県下でもトップクラスであると思う。先輩方が畑かんなどをして良い農地を造ってくれており、また、この温暖な地域である利点を生かして、もう少し農業振興に努めてもらいたい。

今の農家はかなり規模が大きくなっており、そこで雇用している人たちも結構いる。そのような雇用や、話にも出ていた付加価値を付けるというようなことから、大きな発展が望まれる産業であると思うが、どのように考えるか。

<市長>

いろいろな事業を、農政もやっている。若者の経営感覚により、農業の経営形態も大きく変わりつつある。

<農政部長>

まず、今の農業の重要課題は、人と農地をどうしていくかということである。農地に関しては皆さん方の努力により、昭和40年代から南薩土地改良の事業で基盤整備を行い、畑かん用水を張り巡らしている。8月は1か月ほど雨が降らなかったが、この畑かんの地域では断水もなく効果が出ていると感じた。南薩土地改良区によると、半年ほど雨が降らなくても大丈夫とのことである。40年ほど経っているので、しっかりと更新しながら先代から引き継いだ農地を維持していかなければならない。

人の問題については、高齢化により農家も減ってきている。国も全国的な問題であると認識しており、いかにして若い方に就農してもらおうと様々な施策を講じている。指宿でも、若い方々が年に30人ほど就農し増えてきているが、農家の平均年齢は65歳以上と高齢化が進んでいる。

しかし、若い方々が農業は魅力がある産業として飛び込んできてもらえるように、法人化を進めて従業員として農業に入ってもらえるなど、様々な施策を講じて指宿の農業を発展させていきたい。

<市長>

農業にチャレンジしたいと、熊本から指宿に夫婦で移り住んだ。熊本と違い温暖な指宿では、非常にやりがいがあるという記事が広報誌の11月号に載っている。このような方々が、指宿に来て良かったと思うような環境をつくらなければならない。そのために、耕作放棄地や後継者をどうするのか。そして、農産物に付加価値を付けて、どのように儲かる農業をするのかといったことをしていかなければならない。

先日、香港に指宿のかつお節など、様々な物を持って行ったところ、大変な人気であった。今後、どのような形で高く外国に出せるかという方法を考えなければならない。鹿児島県のある企業が、まとめて持って行って、高くで売り、儲かる農業・畜産を目指す試行的な取組をしようとしている。農業に魅力を感じるような、若い方が農業をしたいと思えるような地域をつくっていかなければならない。

【市民】

高齢化が進み、池田校区でも若い人が減少している。経済的な問題もあるかと思うが、いろいろな組織が集約され、農協の販売所も近いうちに閉まるのではないかという話もある。

そうすると、若い人たちが結婚をして池田校区に住もうとしたときに、利便性が失われ、ますますこの地域が寂れていくような気がしている。

学校の統廃合という話も聞くが、そのような話が先行すると、ますます地域を離れていくような話も聞き、非常に寂しい思いをしている。今後、池田校区をどのようにしていこうと考えているのか。具体的に、市からの提案もしてもらいたい。

<市長>

これから池田が、1番魅力的な場所になるだろうと思う。それは、スカイラインが開業し、鹿児島空港から池田まで1時間で来れる距離に間もなくなる。橋を架けたり真っ直ぐすると、約80kmぐらいになる。そうすると、指宿への入り口は池田になるだろう。今後、地域のデザイン、交通網

が、池田が入り口になることで、相当変わってくると思う。池田湖が見えて、開聞岳が見えたとき、観光客は驚くだろう。

三反園知事もスカイラインを開業して、鹿児島空港から指宿までの距離を短くしたいというのが一つ。あと一つは、国道226号線が良く通行止めになる。東北大震災のときにはJRも通らず、ホテル関係には全然お客が来なかった。代替道路として、このスカイラインがもっと便利になったら、池田は相当変わると思う。

学校の統廃合の問題も出た。今後、子どもたちの数がどうなるかを含め、地域の声を大切にして進めなければならないと思う。特に、小学校の場合は。中学校の場合は、今後も部活動がずっとできるかというのも、子どもたちにとっては大切な問題である。

また、学習の問題もある。今、西指宿中学校では全ての教科の専門の先生は付いていない。学級数が少なかったりすると、例えば体育の先生が別な教科も持ったりと、先生方の努力や大変な苦労もある。一方では、専門の免許を持った先生に教えてほしいという子どもたちの要望もある。

いろいろなことを考えながら、今後、学校問題はどのようにするのかというのは、みんなの意見を聴きながら考えていかなければならない。ここにたくさん子どもたちに住んでもらえるような、ここで不便にならないような、ここで安心して生活ができるような環境をつくらないといけないと思うが、今後どうしていくのかについては、皆さんと協議をしてみたい。決して、行政主導であることはない。皆さんの意見を大切にしなければならない。

一番は子どものこと、保護者のこと。そして、地域のこと、先生方のこと。いろんなことを、総合的に考えていかなければならない。

池田小、西指宿中は元気があり、いい先生方もいらっしゃる。池田小学校の子どもたちの様子はどうか。

<池田小学校教頭>

地域の皆様のおかげで非常に元気がよく、毎日、安全に生活させてもらっている。この前もイッシーまつりという地域を巻き込んだまつりがあり、高齢者の皆さんと一緒に作った芋や米などの農作物を、PTAの保護者にも一緒に調理してもらって、イッシーまつりで出した。

<市長>

もちつきも間もなくある。池田ならではの、ユニークな取組である。それは、地域の方々が池田小学校に対する熱い思いがあるからである。

西指宿中の校長先生は、何かないか。

<西指宿中学校校長>

子どもたちは、何事にも一生懸命に取り組んでいる。池田湖は本当にいい所で、眺めも最高だと思っている。地域の方々は気付かないが、我々はよそ者として見えている良い所もあると思う。地域が活性化できるような力になればと考えている。

今まで赴任した学校の中で、将来は地元に戻って生活したいという地域と、逆によそに出て生活したいという地域もあった。その違いは何かと考えると、地域の人たちが子どもたちをかわいがっているかどうかであるようだ。子どもたちが、地域の人たちに愛されているという感覚を持って卒業しているというところに原因があると思う。地域との関わりを目指した教育活動を展開したい。また、地元の良さを子どもたちに体験させたい。

【市民】

指宿市販まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像を参考にして質問したい。

小さな拠点づくりというのがあるが、拠点には校区公民館や小学校といったセンターがある。しかし過疎が進むと、こういったセンターがなくなるかもしれない。私たちは、これを1番心配している。なくなるということは、若い人たちが出ていくということである。小さい地域であるけれども、拠点は必要であると思う。

<市長>

やはり、集落・地域には拠点がなければならない。そこを核にして触れ合いが生まれて、人とのつながりができる。池田における現在の拠点は、学校や公民館だと思う。学校が拠点となり、子どもで地域は結ばれている。

今後、少子高齢社会になったときに、その拠点をどのようにつくっていくのかということである。池田では、どのような拠点が必要だと思うか。

【市民】

校区公民館は必要だと思う。お互いに寄り合っているいろんなことを話し合ったり、池田と一緒にやって仕事をするかもしれない。やっぱり、核がないといけない。

【市民】

高齢化が進むと、空き家が増える。また、私の地域で心配しているのが、認知症による徘徊への対処についてである。年寄りだけになる集落を、行政としてはどう見ているのか。若者が池田に帰って来る方法が何かないか。

<市長>

空き家の問題もある。認知の高齢者が増えたときに、地域でどう支えるかということもある。介護もこれから包括支援、地域でいろいろやろうとする流れの中で、池田地域はできるのかというのは心配なことでもある。

【市民】

池田に拠点をという意見があったが、池田小の立場としては、子どもたちが増えると地域が元気になる。では、子どもたちを呼び込むために、池田に行こうか、池田に住もうかと、どうしたら親に思ってもらえるのかを考えたときに、私が池田に住むときに最初に悩んだのは、住む所をどうしようということだった。

池田保育園の園児の7～8割は指宿からの園児で、送迎バスが3台出ている。池田保育園は先生方も素敵で、親の出方も少ないこともあり人気である。子どもを育てるためにはお金が必要であり共働きをしなければならないが、指宿では雇用が少なく、鹿児島や川辺、加世田まで通勤をすると、親の出方が少ない方がいい。そこで、池田保育園が選ばれる。池田小学校もPTAや地域の方も協力してくれる良い学校で、そのまま上がりたと思うが、住む所がない状況である。

空き家は多くあると思うので、市が借りやすくしてもらえると、少しは他から若い人たちが来やすいのではないだろうか。

<市長>

子育てがしやすく、地域が子どもたちの面倒をみてくれる。しかも、住む所もあって地域も優しければ住みたくなる。池田で貸してくれる家が、どれだけあるか調べてみなければならない。

<総務部長>

毎年、空き家の状況については、消防団の協力をいただきながら調査をしている。家財道具があったり、なかなか進まない。

今、そのような空き家をどうするかということで、モデル地域をつくって、新たな地域コミュニティをつくろうと市の方でやっている。小学校区を単位として地域の課題を見つけて、その課題を一つずつグループ分けして解決していこうと、モデル地域の山川の福元区で空き家を利用して、子どもたちを老人の方々がボランティアであずかっている。また、夏休みなどに学生が来て、勉強をみてあげたりしている。

現在、5地区ほどモデル地区を設けており、今年である程度、問題が見えてきたので、来年度に向けて市民協働課パートナーシップ推進係の方で進めている。地域コミュニティを小学校区でどうにかできないだろうかと、市に2人いる地域の推進員の力を借りながら進めていこうとしている。池田の方にも、そのような展開ができればと思う。

<市長>

この空き家問題と、そこに住む手立てを成功した所もある。串良の柳谷集落、やねだんという所である。豊重哲郎さんという方が、いろいろやった。あそこは空き家が多くあり、中学校も荒れて大変だった。そのとき柳谷集落でも、仏壇がある、布団が残っていると家を貸してくれなかった。ところが、ある1軒が貸してくれてリフォームをしたら、そこに大学生が来て絵を描いてくれたりした。それを玄関に貼ったりしたら、貸してくれる家が増えて、今では20軒くらいになっている。大学生が、夏休みはそこに来て集中合宿をする。そのときに、その集落の小・中学生に英語や絵

を教える。そうして、あのようによねだんという全国に有名な所ができた。

そうすると、そこのお年寄りが、家だけではなく畑も貸すということになり、芋作りが始まった。それを大海酒造や小鹿酒造に売って、よねだんという焼酎を作り、それを売った。すると、みんな喜び、儲けでお年玉を配った。

池田でも、例えばこの近くに空き家があれば、子どもたちが帰るときには、そこに帰っておいて、そこで地域の方々が勉強を教えてくれたり、母親たちが帰って来るまで面倒をみてくれば、安心して仕事に行ける。そして、帰りにはそこに寄って、子どもたちを引き取って帰れば良い。

そのように核になる所を、池田でいくつかついでみてはどうだろうか。そのような家があれば、我々は積極的に協力をする。池田で子育てがしやすいとなれば、こっちに住もうという人は結構いるんじゃないだろうか。そういう仕掛けをしながら、持続的な池田という地域をつくっていけばどうだろうと思う。池田らしい、子育てができる場を確保したいと思っている。

【市民】

台風で、山の大木があちらこちらで倒れており見苦しい。その倒木は、そのまま置いておくのか。地権者も手を付けないと思うので、行政として何とかできないものか。商品にはならないと思うが、畜産農家が使うおがくずとしては使用できるのではないか。

<農政部長>

台風 16 号により、県内各地、特に大隅半島で被害が大きかった。農政部では、農道や林道など、山の関係を把握している。倒木が発生した場合、道路についてはできるだけ早く開通できるように努めており、林道を含めて開通していると思う。

山の中の倒木については、県等にも相談しているところである。今の森林関係は、材木をチップにして発電をするというバイオマス発電が進み、霧島市でも 2 か所ほど稼働しており、だんだんと材木が足りなくなる傾向にあるという話も聞く。

その辺りも含めて、材木の有効活用を考えているところである。

【市民】

森林組合では補助事業で間伐を行っているが、対応してもらえないものか。

<農政部長>

そこも含めて、県の方には相談している。

<市長>

いい話をいただいたので、検討させてもらいたい。それが畜産農家やほかの農家にも影響があるとすれば、看過できない問題である。何とか行政としても、対応しなければならないだろう。

【市民】

池田校区では、無線を使って集落内の放送をしている。ところが、5 年後には電波法の改正により使えなくなる。そうすると、各家庭への無線機が 1 台 3 万円した。親機が公民館と館長宅にあるが、10 万円から 20 万円近くする。

設置した際には、集落や市の方からも補助金が出たそうである。その辺りをお伺いしたい。

<総務部長>

おっしゃるとおり、平成 34 年ですかね、電波法の関係で使えなくなる。

市の方の防災行政無線も、平成 24 年から平成 27 年にかけてデジタル化した。国の方から、周波数の関係でデジタル化をするようにとのことであった。

池田校区は、平成 24 年に市内で最初に防災行政無線をデジタル化した。ほかの地域でも、家庭内に子機を付けてほしいという要望があり、市としてどのようにしようか検討していたところ、電波法が平成 26 年に少し緩和され、今年は山川・開聞地域において、1 台当たり 9,500 円で購入できる防災ラジオの購入希望者を募集しているところである。

このラジオは行政無線だけではなく、地区の放送も可能である。館長が自分の携帯電話から、地区放送をすることも可能である。指宿地域では来年この工事を行い、工事が終わった頃に防災ラジオの販売を行う予定である。

ただ、訃報の連絡については、電波法でできないことになっている。また、自分の地区にだけ放

送をすることはできないので、必ず地区名を付けて放送してもらいたい。

どうしても、地区で放送設備をしたいということであれば、指宿市公民館広報用施設補助金というものもあるが、地区に対して上限が45万円となっている。

【市民】

下門地区には猿の子踊りがあるが、ここ数年途絶えていたが、小学校でも取組をしていただき再開することができた。しかし、今の先生方が転勤した場合に、後が続くかが心配である。

猿の子踊りを残すことができるよう、市からもいろんな形で応援してもらいたい。

<市長>

地域の郷土芸能を含めて、残すための取組をしなければならない。今、スポーツ・文化振興基金というものがあり、郷土芸能についてもある程度、手当てができるような形に持っていかなければならないと思っている。

【市民】

県内を転々としていたが、池田地区が気に入り移住してきた。

人口減少については、子育て世代を根付かせることが、遠いようで近道だと思う。子育て世代を残せば、20年後、30年後に子どもたちは必ず帰ってくると思う。住み慣れた所が一番だと思う。そのためにも、子育て支援に力を入れることが重要である。近隣よりも少し力を入れるだけで、移住する人もいると思う。

市として企業誘致もしていると聞いた。しかし、私の地元ではNECを誘致したが、大規模なリストラでまち自体が駄目になった。そのようなこともあるので、企業誘致は即効性があるが非常に危険だと思う。

また、子育て世代にとって、絶対に必要なものは学校である。統廃合・小中一貫校を進めようと言われているが、学校がなくなると過疎化が急速に進む。指宿には、そう言ってほしくないと思う。

次に、スカイラインを通勤道路として使えたらいいと思う。話に出た道路改良が早く実現してほしいと思う。また、夜の10時から朝の8時まで無料になれば、鹿児島市内への通勤にも利用できるようになる。

最後に観光についてだが、池田湖と開聞岳の絶景を見て、すばらしいと思い、ここに住みたくなるほどであった。ただ、JRで指宿駅に着いた方が駅前の風景を見たときに、また来ようと思うだろうか。うまく活用していく方法を、行政が手伝えばいいまちになると思う。リピーターを増やせるかが重要である。黒川温泉は、熊本の人でも寄り付かないような温泉であった。しかし、統一感を持たせて改良したことで客が増えた。指宿市でも何かできるのではないか。

<市長>

谷山以南のスカイラインの無料化は、間もなくできると思う。三反園知事の強い思いである。また、スカイラインの改良の方法も、ある程度、基本的な方向は決まっている。これも早くやりたいということで、指宿出身の知事ということもあり強い意欲を持っている。

また、子育てがしやすいような支援は必要だと思う。人手が足りない所は、ホテル等もそのようなことをしている。都会から移り住み、池田で子育てをした方に車の貸与などをすると、たくさん働く人が来るのではないか。それで成功しているまちもあるので、参考にさせてもらいたい。

出水市などでも、企業の撤退により大変であった。そういう意味で、子育てを根付かせることで地域を元気にする、これは池田は1番大切だろうと思う。どういう方向にするというのは、早速、検討させていただきたい。